

# 都留市セーフコミュニティ 外傷サーベイランス委員会

報告者 委員長 鈴木 健大

# 委員会の概要

# 外傷サーベイランス委員会の設置

指標1 分野横断的な協働の仕組み

**指標2 外傷サーベイランス**

指標3 包括性・エビデンスベース

指標4 ハイリスクの人(集団)・環境・状況に対する取組

**指標5 取組の評価(アセスメント)**

指標6 SCネットワークへの参加

→ 指標2・指標5を担う組織  
(2018年8月設置)

# 外傷サーベイランス委員会の構成

図表1

No.	チーム	分野	団体名	委員数
1	実務チーム	医療機関	都留医師会	1人
2		教育・研究機関	都留文科大学	1人
3		行政機関	大月警察署	1人
4			都留市消防本部	1人
5			都留市	3人
6		専門機関	日本セーフコミュニティ 推進機構	1人
7	アドバイザーチーム	医療機関	都留市立病院	1人
8		教育・研究機関	健康科学大学	1人
9			埼玉県立大学	1人
10		行政機関	富士・東部保健所	1人

# 外傷サーベイランス委員会の役割 I

## ①データの収集・分析

事故・けがの全体像の把握、調査・記録方法の改善

## ②地域安全診断

重点分野、重点課題、ハイリスクグループの抽出

## ③持続可能な外傷調査システムの構築

構成データの選定、データ収集計画の策定

## ④評価方法の検討

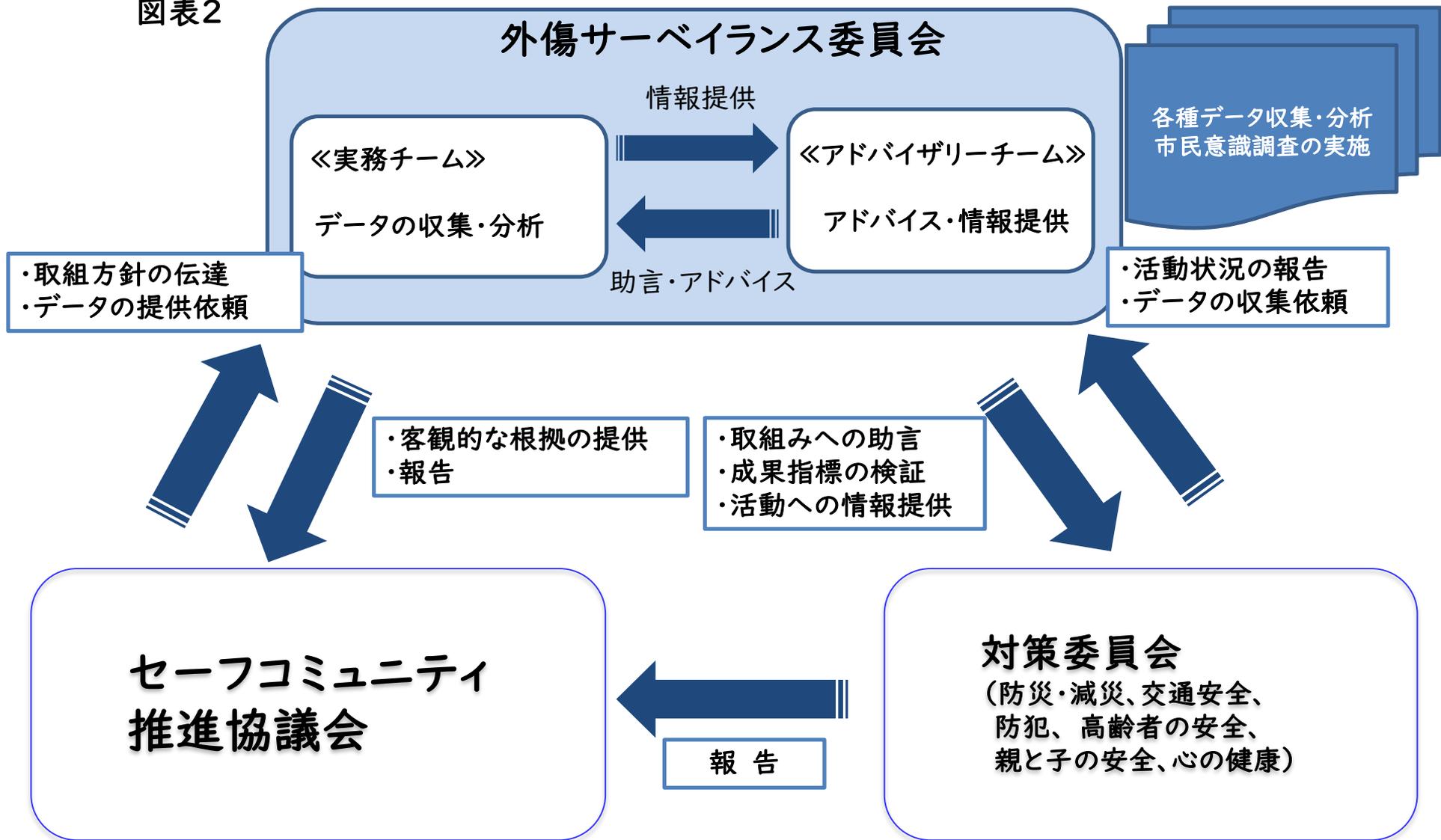
全体及び対策委員会別の評価方法の検討

## ⑤対策委員会への支援

データの提供、評価方法の提案、指導・助言

# 外傷サーベイランス委員会の役割2

図表2



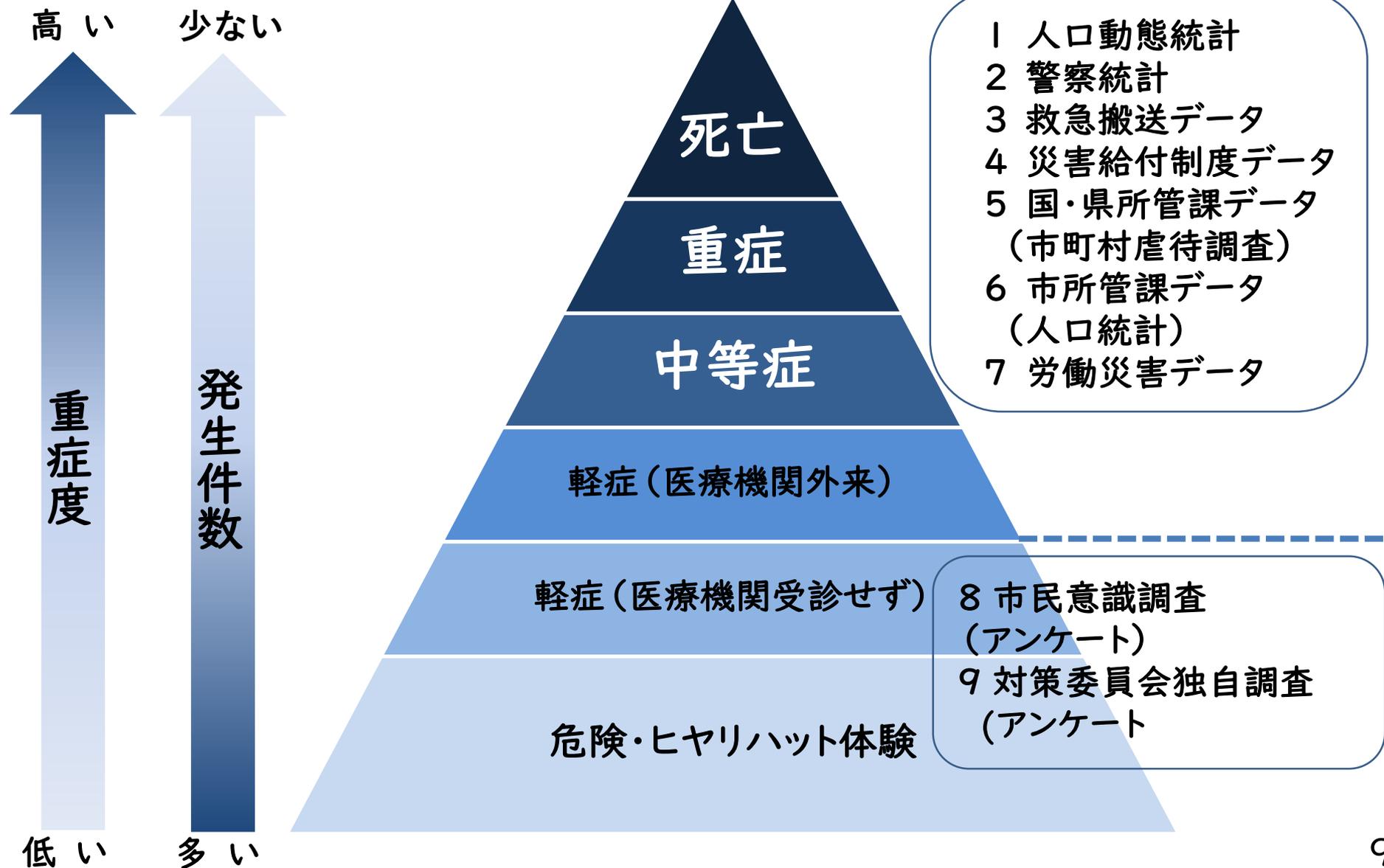
# 外傷サーベイランス委員会活動の経過

回数	開催日	主な会議内容
第1回	2018年10月	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域安全診断</li><li>・対策委員会への助言</li></ul>
第2回	2019年6月	<ul style="list-style-type: none"><li>・重点課題の抽出に向けた助言</li></ul>
第3回	2019年12月	<ul style="list-style-type: none"><li>・重点課題に対する評価、助言</li><li>・取組みに向けた助言</li></ul>
第4回	2020年3月	<ul style="list-style-type: none"><li>・対策委員会の活動報告に対する助言</li></ul>
第5回	2024年1月	<ul style="list-style-type: none"><li>・SC取組前から2022年までのデータ変遷の分析</li><li>・各対策委員会の取組の評価</li></ul>
第6回	2025年1月	<ul style="list-style-type: none"><li>・各対策委員会独自収集データの分析</li><li>・各対策委員会の取組の評価</li></ul>

# 都留市における外傷記録の状況 (安全診断)

# 外傷の重症度とその記録種類の関係図

図表3



# 対策委員会別の主な収集データ

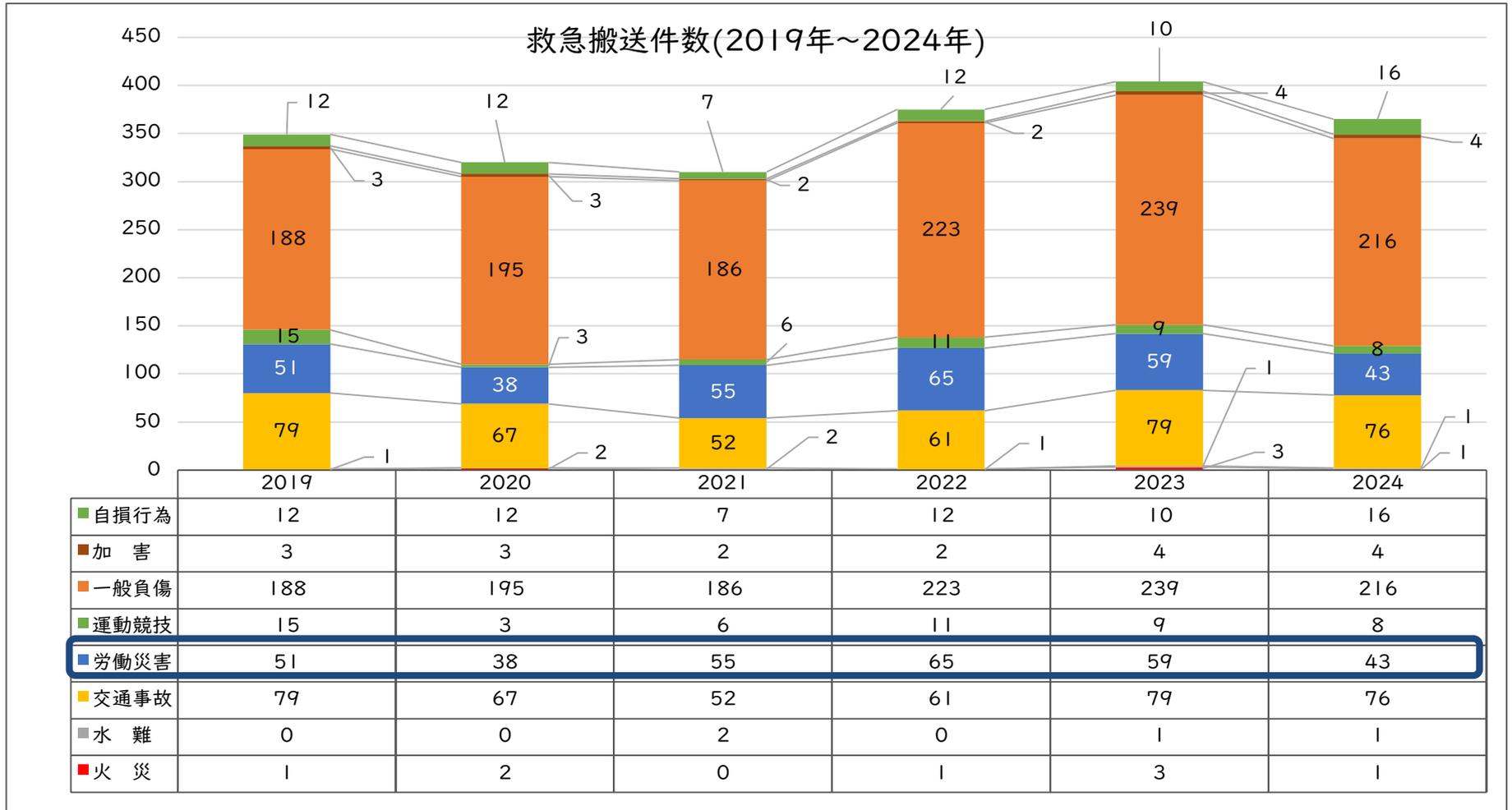
図表4

NO	名称	内容	防災・減災	交通安全	防犯	高齢者の安全	親と子の安全	心の健康
1	人口動態統計	外因による死亡原因に関する情報	●	●	●	●	●	●
2	警察統計	交通事故、犯罪に関する情報		●	●			
3	救急搬送データ	事故やけがによる救急搬送の情報	●	●	●	●	●	●
4	災害給付制度データ	小中学校における事故やけがに関する情報					●	
5	市町村虐待調査	市内における虐待の件数等に関する情報					●	
6	人口統計	人口、世帯数等に関する情報	●	●	●	●	●	●
7	労働災害データ	市内事業所で発生した労働災害による件数・業種・起因物などのデータ	※労働災害対策委員会の立ち上げ検討中					
8	市民意識調査 (安全・安心なまちづくりアンケート)	外傷発生状況(ヒヤリハット)事故やけがに対する不安に関する情報	●	●	●	●	●	●
9	対策委員会独自調査 (アンケート)	市民の意識など行政機関のデータには表れないもの						

# 行政機関から入手したデータ

# 労働災害に関するデータ①

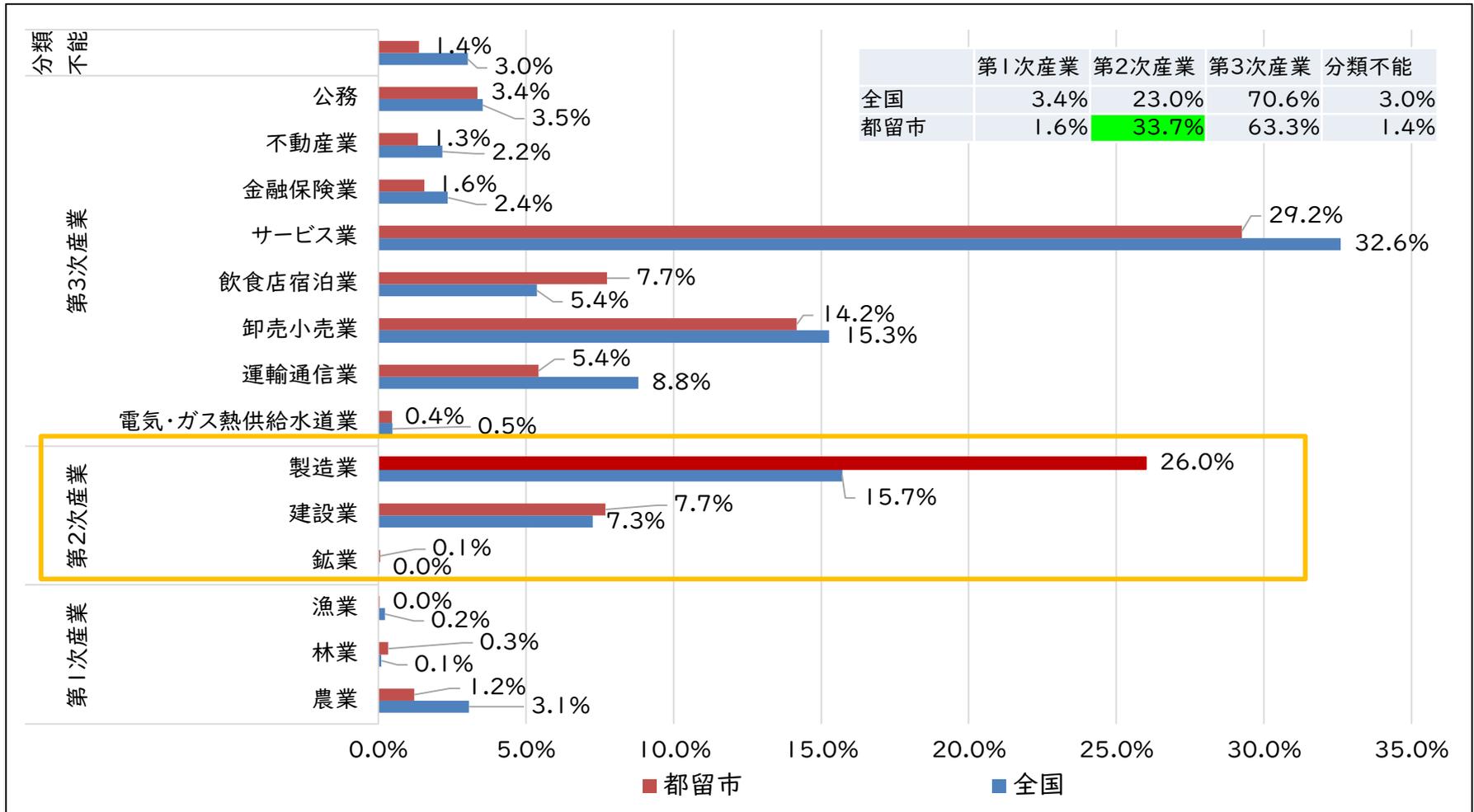
図表5 救急搬送件数(2019年~2024年)



労働災害の救急搬送件数は、急病を除く救急搬送の中で3番目に多い

# 労働災害に関するデータ②

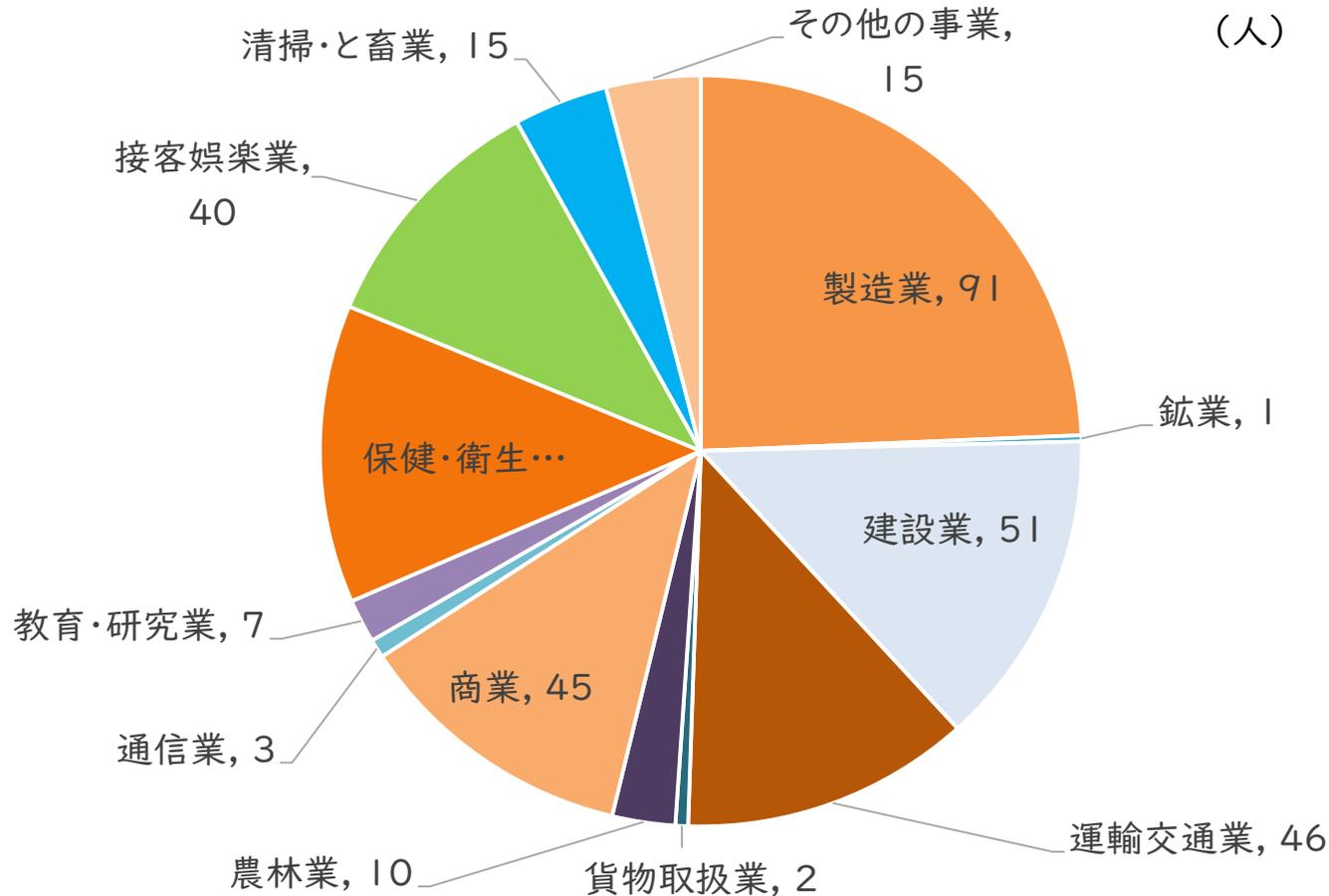
図表6 就業者数の比較(2020年)



・都留市は全国と比較して、第2次産業への就業率が高く(都留市33%:全国23%)、そのうち、「製造業」従業者が26%と突出している

# 労働災害に関するデータ③

図表7 業種別災害発生人数(2014~2023)



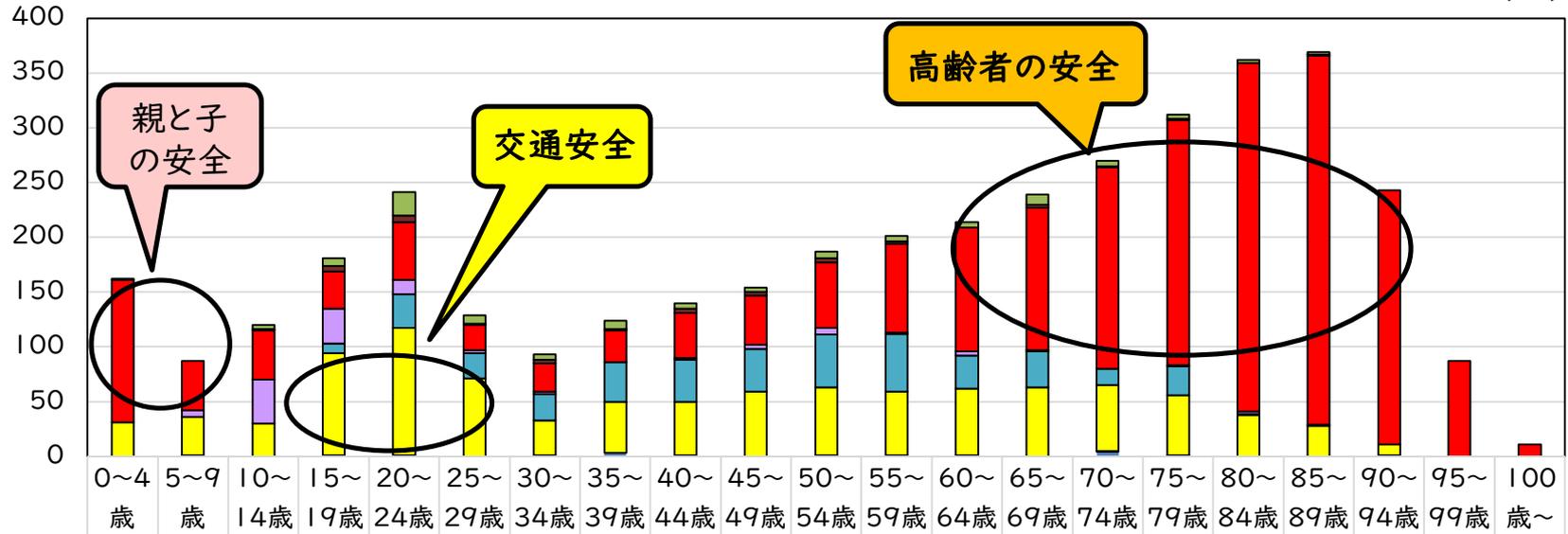
- ・災害発生が多い業種は、製造業(91人)多く、全体の約24%を占める
- ・今後、詳細なデータを収集し、ハイリスク対象を定めていくことから始めていきたい

# 救急搬送データ

外的要因による救急搬送人数の内訳は、10~29歳は交通事故、0~9歳及び60歳以降は一般負傷（転倒・転落によるケガ、異物誤嚥等の事故）が多い

図表8 年齢層別・事故種別救急搬送人数の内訳(2013年~2023年)

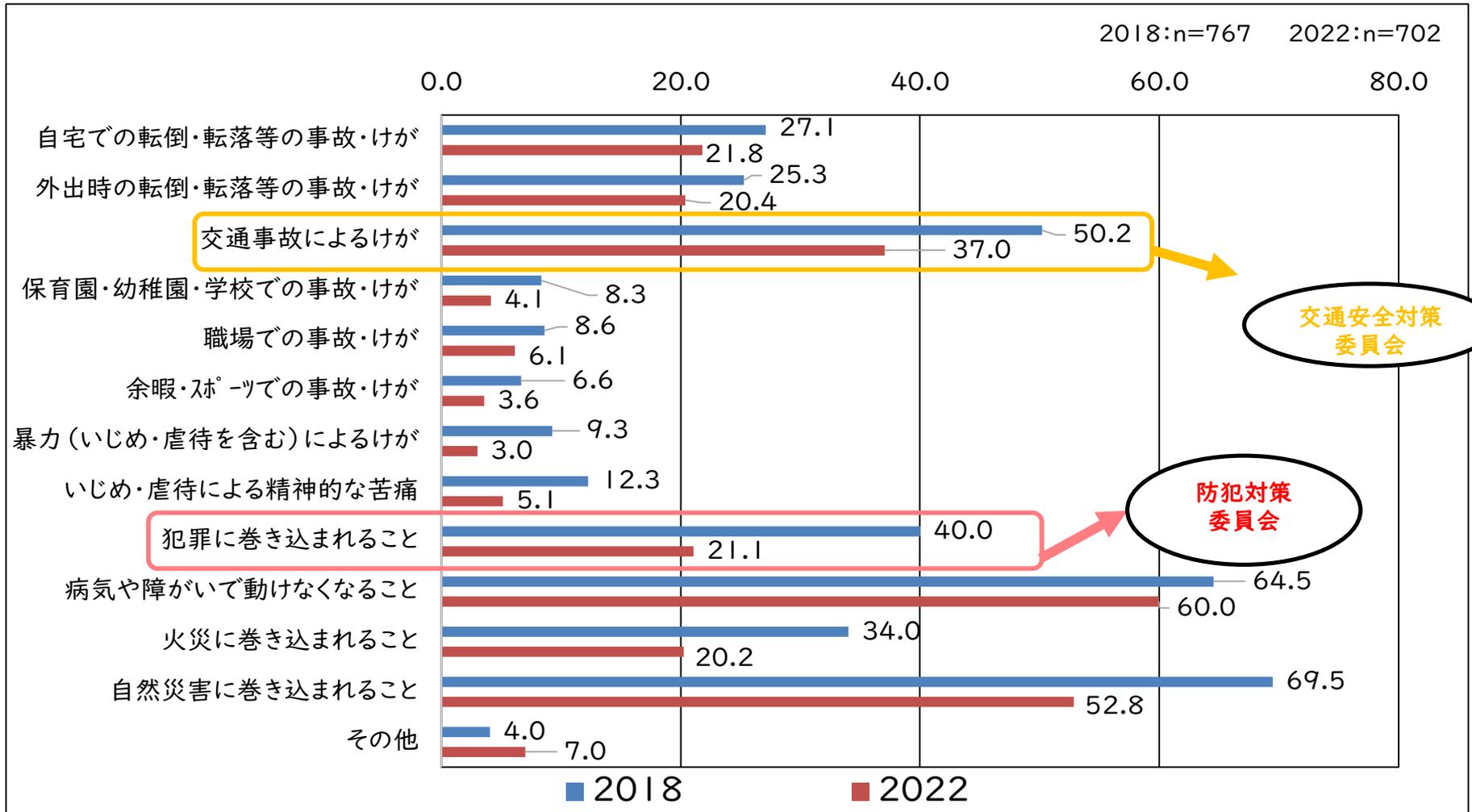
(人)



	0~4 歳	5~9 歳	10~ 14歳	15~ 19歳	20~ 24歳	25~ 29歳	30~ 34歳	35~ 39歳	40~ 44歳	45~ 49歳	50~ 54歳	55~ 59歳	60~ 64歳	65~ 69歳	70~ 74歳	75~ 79歳	80~ 84歳	85~ 89歳	90~ 94歳	95~ 99歳	100 歳~
■ 自損行為	0	0	4	7	21	8	5	8	5	4	6	5	5	9	5	4	3	2	0	0	0
■ 加害	1	0	1	5	6	1	3	1	4	3	4	2	0	3	1	1	0	1	0	0	0
■ 一般負傷	130	45	45	34	53	23	26	29	41	45	60	81	113	130	184	224	318	337	232	87	11
■ 運動競技	0	6	40	32	13	3	2	0	2	4	6	1	4	1	0	1	2	0	0	0	0
■ 労働災害	0	0	0	9	31	23	24	36	38	39	48	53	30	33	15	26	1	1	0	0	0
■ 交通事故	31	35	30	93	116	71	32	47	49	59	62	58	61	63	60	55	38	28	10	0	0
■ 水難	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
■ 自然災害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
■ 火災	0	0	0	0	1	0	1	3	1	0	1	1	0	0	4	0	0	0	1	0	0

# 市民の不安感(体感治安)

図表9 都留市で生活する中で不安に感じている事柄(全体)

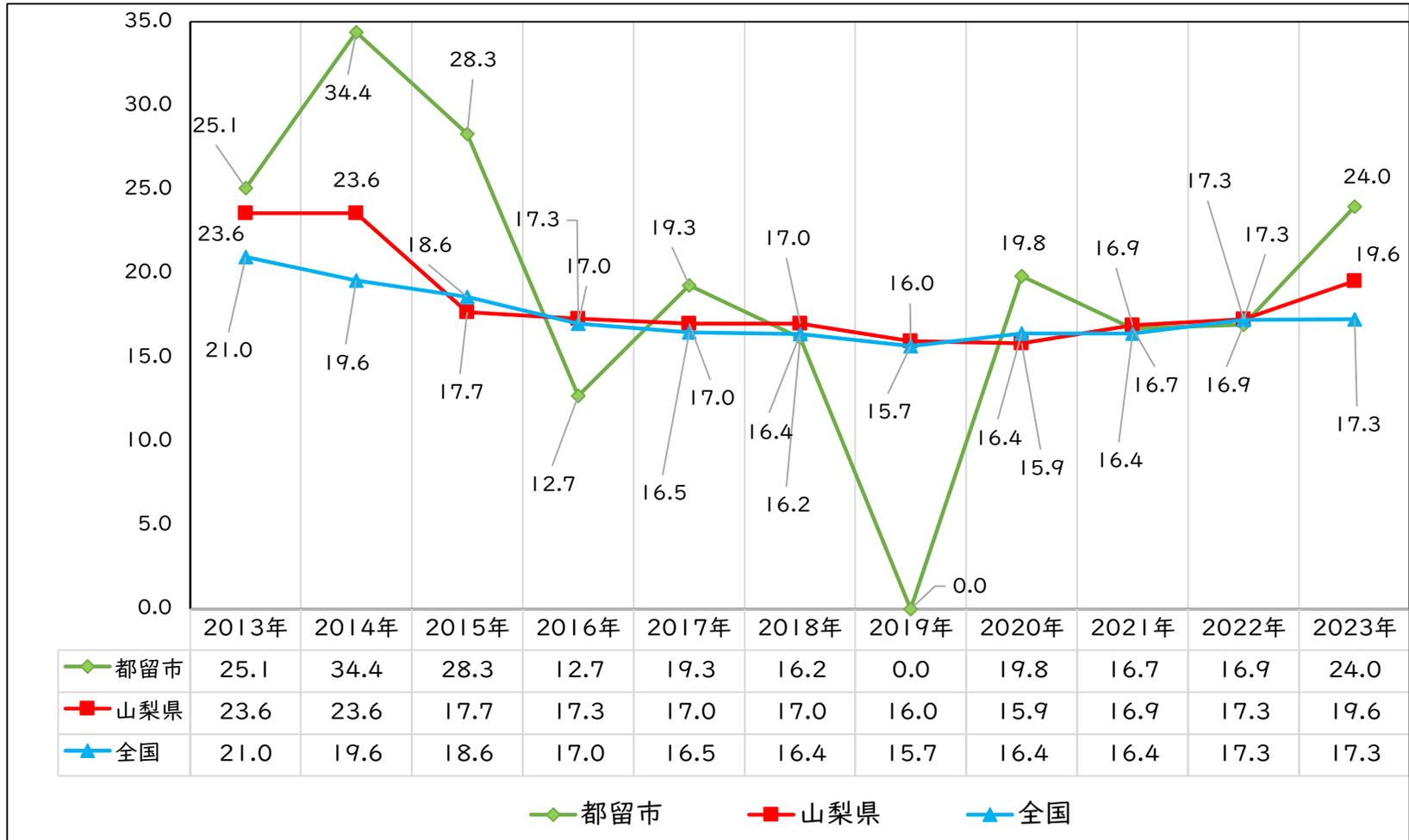


出典:安全・安心なまちづくりアンケート(2018、2022)

# 自殺発生率の推移

図表10 人口10万人あたりの自殺発生率(2013年~2023年)

(件)

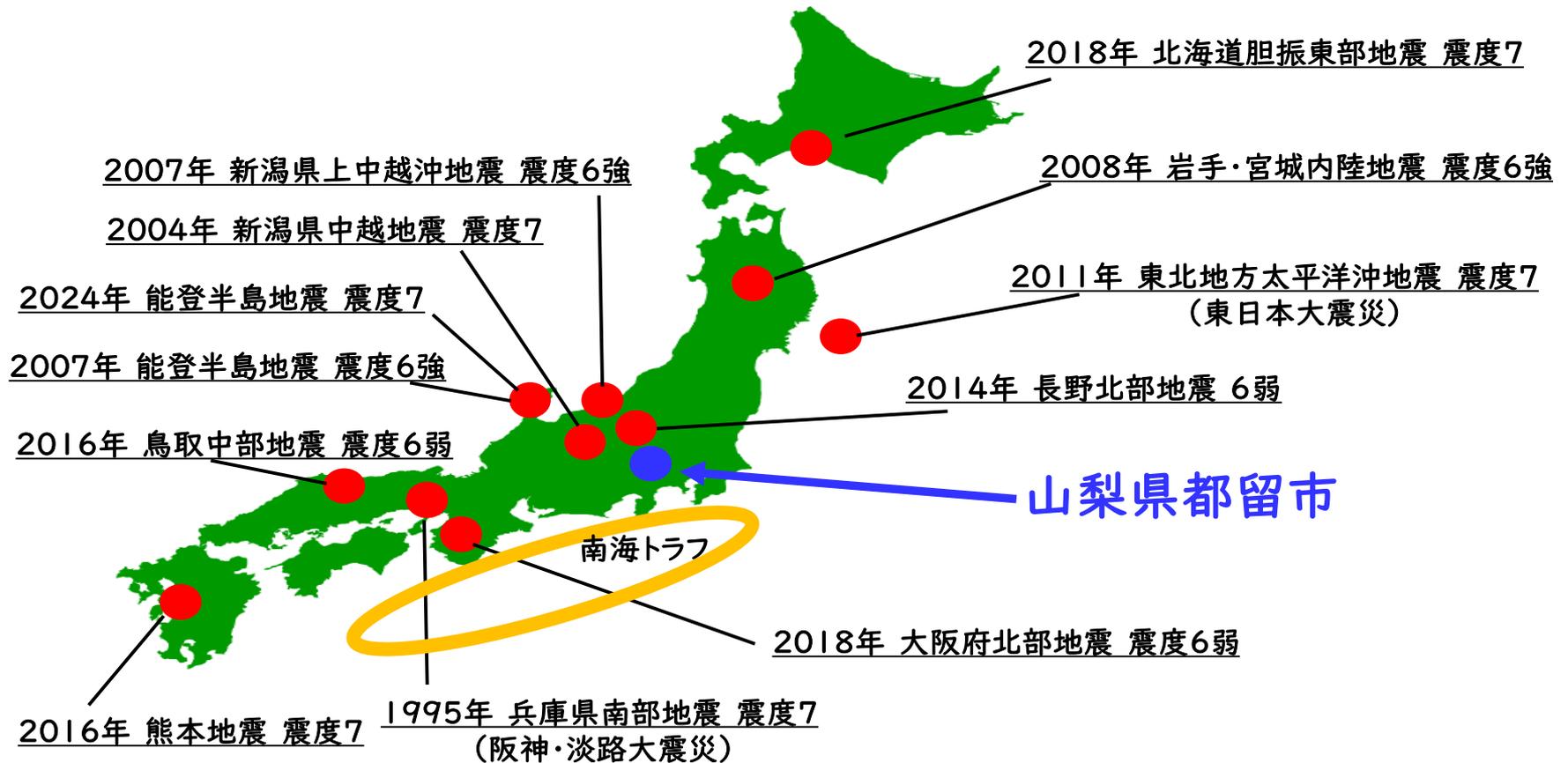


出典:自殺の基礎資料

# 国内大規模地震発生分布図

近年、震度6弱以上の大地震が全国で発生しており、南海トラフ地震・首都直下地震は今後30年以内に、70~80%の確率で発生すると予想されている。

図表11 日本における大規模地震発生状況地図



# 市民意識調査

## (安全・安心なまちづくりアンケート)

# 市民意識調査（安全・安心なまちづくりアンケート）

## アンケートの特徴

- ①日々の生活における不安感など意識に関する状況の把握
- ②医療機関の受診には至らなかったけが・ヒアリハット事例の収集
- ③自由記述による安全・安心に対する定性データの収集



サーベイランス委員会が分析を実施

## アンケートの概要

### 【調査対象】

住民基本台帳から無作為に抽出した18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）

### 【調査項目】

- (1) 基本属性
- (2) 住みやすさ
- (3) セーフコミュニティの認識度
- (4) 地域活動への取組状況
- (5) 都留市で不安に感じる事
- (6) 防災・減災について
- (7) 交通安全対策について
- (8) 防犯対策について
- (9) 心と体の健康づくりについて
- (10) 家庭内の安全対策について

### 【実施年度】

2018年、2022年、2025年（予定）

# 2018年調査

自然災害に対する不安は全年齢層において高く、交通事故・犯罪は若い年齢層で高く、高齢になるにつれて病気・転倒等身体に対する不安が高くなっていく。

(%) 図表12 都留市で生活する中で不安に感じている事柄(年齢別)

	20歳未満	20歳～29歳	30歳～39歳	40歳～49歳	50歳～59歳	60歳～64歳	65歳～69歳	70歳～74歳	75歳～79歳	80歳以上	
自宅での転倒・転落等の事故・けが	3.0	2.7	1.3	3.4	3.4	5.8	8.9	11.6	③12.6	①20.7	高齢者の安全
外出時の転倒・転落等の事故・けが	1.5	3.3	2.6	3.4	4.7	5.8	8.1	11.3	11.2	14.3	交通安全
交通事故によるけが	②18.2	②15.4	③13.5	②14.7	12.7	③13.8	③12.2	③15.1	11.2	12.0	交通安全
保育園・幼稚園・学校での事故・けが	1.5	0.5	7.4	5.6	1.1	1.2	0.5	0.6	0.9	0.8	
職場での事故・けが	1.5	4.4	3.1	3.1	3.4	4.0	1.9	0.6	0.9	0.0	
余暇・スポーツでの事故・けが	3.0	1.6	1.7	2.5	1.7	1.8	1.4	1.9	4.2	0.0	
暴力(いじめ・虐待を含む)によるけが	4.5	6.0	7.0	3.4	2.8	2.2	1.9	0.0	0.5	0.8	
いじめ・虐待による精神的な苦痛	6.1	8.2	9.6	5.3	3.2	2.5	1.4	0.6	2.3	0.0	防犯
犯罪に巻き込まれること	②18.2	11.5	②14.4	11.9	③14.8	12.6	8.9	7.5	7.0	7.9	高齢者の安全
病気や障がいで動けなくなること	7.6	③12.1	11.4	③14.1	②19.4	②18.5	①21.9	①23.3	①21.0	②17.3	高齢者の安全
火災に巻き込まれること	12.1	7.1	8.7	9.7	9.5	10.2	8.6	8.8	11.2	10.5	防災・減災
自然災害に巻き込まれること	①21.2	①20.9	①17.9	①21.3	①21.5	①20.9	②19.2	②18.6	②15.4	③15.0	防災・減災
その他	1.5	0.5	1.3	1.3	1.7	0.6	1.9	0.0	1.4	0.8	

# 2022年調査

(%) 図表13 都留市で生活する中で不安に感じている事柄(年齢別)

	①20歳未満	②20歳~29歳	③30歳~39歳	④40歳~49歳	⑤50歳~59歳	⑥60歳~64歳	⑦65歳~69歳	⑧70歳~74歳	⑨75歳~79歳	⑩80歳以上
1. 自宅での転倒・転落等の事故やけが	0.0	0.0	1.6	4.0	1.6	6.9	8.2	12.4	12.6	③ 15.9
2. 外出時の転倒・転落等の事故やけが	0.0	4.2	3.2	5.1	2.0	5.2	6.3	12.8	11.6	12.7
3. 交通事故にあうこと	③ 12.5	② 20.8	① 19.8	② 12.6	③ 12.8	③ 13.2	③ 12.1	③ 13.6	③ 15.3	13.3
4. 保育園・幼稚園・学校での事故やけが	0.0	1.0	6.3	6.3	0.8	0.6	0.5	0.4	1.1	0.6
5. 職場での事故・けが	0.0	3.1	6.3	2.9	4.4	4.0	1.9	0.8	1.1	0.0
6. 余暇・スポーツでの事故やけが	0.0	2.1	0.8	1.7	1.2	1.1	1.9	1.6	1.6	0.6
7. 暴力(いじめ・虐待を含む)によるけが	0.0	3.1	3.2	1.1	2.4	1.1	1.0	0.0	0.5	0.3
8. いじめ・虐待による精神的な苦痛	③ 12.5	4.2	6.3	4.6	2.0	2.3	1.9	0.4	0.0	0.0
9. 犯罪に巻き込まれること	③ 12.5	11.5	11.9	10.9	10.4	9.2	5.8	7.2	6.3	4.8
10. 病気や障がいで動けなくなる	② 25.0	③ 12.5	③ 12.7	③ 15.4	② 24.4	① 26.4	① 29.0	① 26.0	① 23.2	① 24.4
11. 火災に巻き込まれること	0.0	8.3	7.9	7.4	6.4	9.8	6.3	5.6	8.9	9.3
12. 自然災害に巻き込まれること	① 37.5	① 27.1	② 18.3	① 22.3	① 28.0	② 18.4	② 21.3	② 17.2	② 16.8	② 16.1
13. その他	0.0	2.1	1.6	5.7	3.6	1.7	3.9	2.0	1.1	2.0

高齢者の安全

交通安全

防犯

高齢者の安全

防災・減災

出典:安全・安心なまちづくりアンケート(2022)

# 重点分野・対策委員会設置の背景

# 重点分野の決定

## 重点分野決定までの流れ

### 都留市における外傷データの収集

関係行政機関からのデータ

市民意識調査  
(安全・安心なまちづくりアンケート)



### 地域安全診断の実施

収集したデータを基に安全状況の確認、現在の活動の把握、今後の優先的課題を見つける



6つの重点分野の決定(推進協議会で承認)

# 6つの分野別対策委員会を決定

## 収集データからみる都留市の課題

○統計データ  
●アンケート

- 南海トラフ巨大地震について、今後50年以内では90%以上の確率で発生すると予想されており、都留市においては、震度6弱が想定されている。
- 市民が不安に思う事柄で最も多いのは「自然災害」である。
- 防災対策を講じている人は半数に満たない。

- 外傷による救急搬送では「一般負傷」の次に「交通事故」が多い。
- 交通事故による死者と救急搬送者のいずれも、「高齢者」と10代~20代の「若者世代」が多い。
- 市民が不安に思う事柄で「交通事故」は上位(3番目)である。

- 人口10万人あたりの犯罪認知件数は、全国や山梨県と比べて少ないが、窃盗犯のうち侵入盗は全国や山梨県に比べて多い。
- 防犯に関する地域活動に現在取り組んでいる人は約1割程度
- 市民が不安に思う事柄で「犯罪被害」は上位(4番目)である。

- 一般負傷による救急搬送が80歳以上で最も多く、60歳以上が全体の6割を占め、「転倒・転落」が多い。
- 過去1年間の事故・けがの状況において、高齢者の約6割が「転倒・転落」によるもので、発生場所の6割が「自宅」である。

- 一般負傷による救急搬送が0~9歳の年齢層で高齢層に次いで多い。
- 過去1年間の事故・けがの状況において、「就学前の子ども」から「中学生」までの約5割が「転倒・転落」によるものである。
- 子どもの安全に関する地域活動に取り組んでいる人は約1割程度

- 人口10万人あたりの自殺発生率が全国・山梨県に比べると高い。
- 自損行為による救急搬送は若い世代で多く、中等症以上の割合が高い。
- 自殺に関する地域活動に取り組んでいる人は約1割程度

防災・減災対策委員会

交通安全対策委員会

防犯対策委員会

高齢者の安全対策委員会

親と子の安全対策委員会

心の健康対策委員会

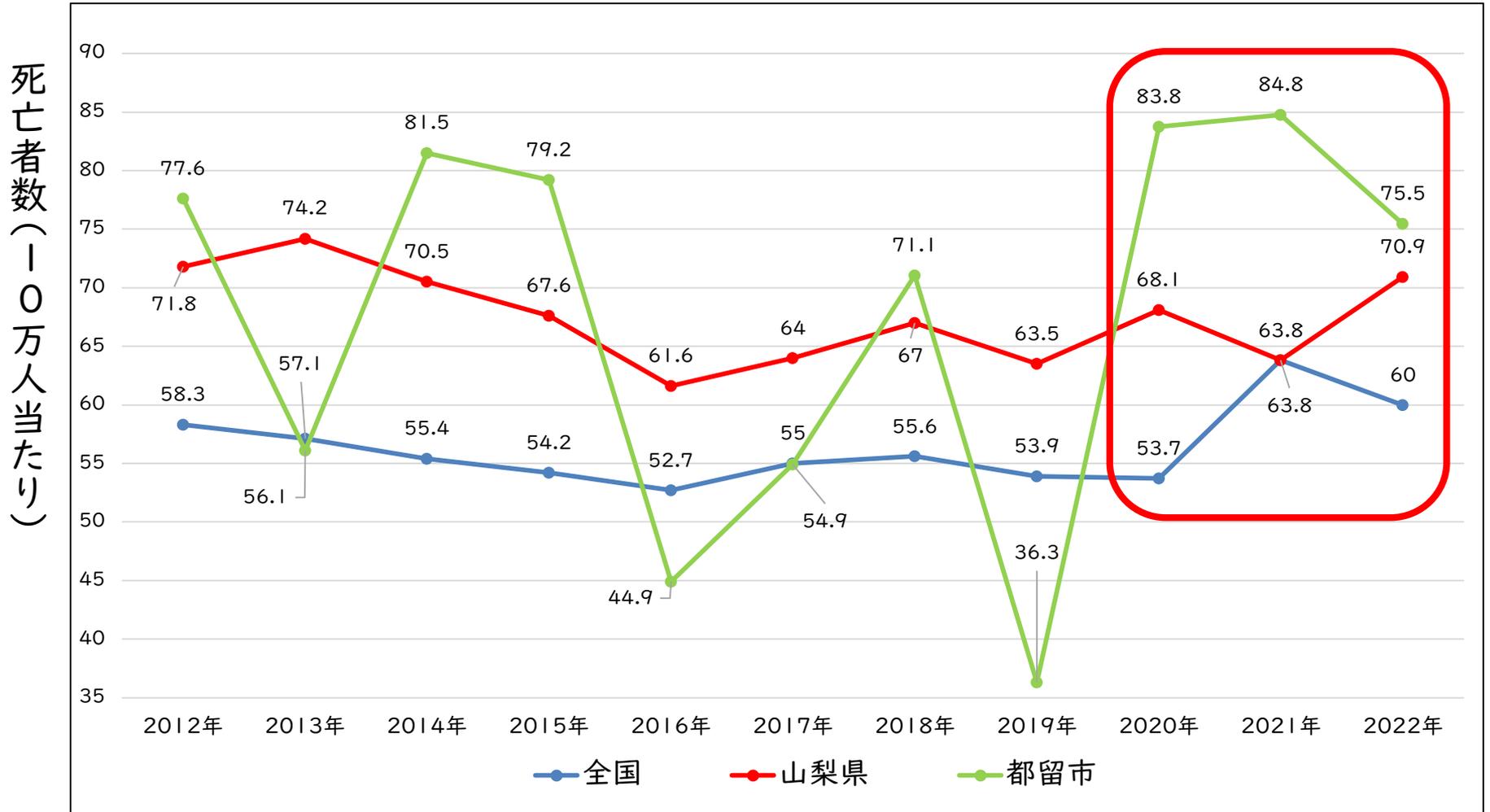
# 認証後のデータの変化について

# 外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡率の推移

⇒ 全国・山梨県に比べて高い。

図表14 人口10万人あたりの外傷死亡者数(2012年~2022年)

(人)

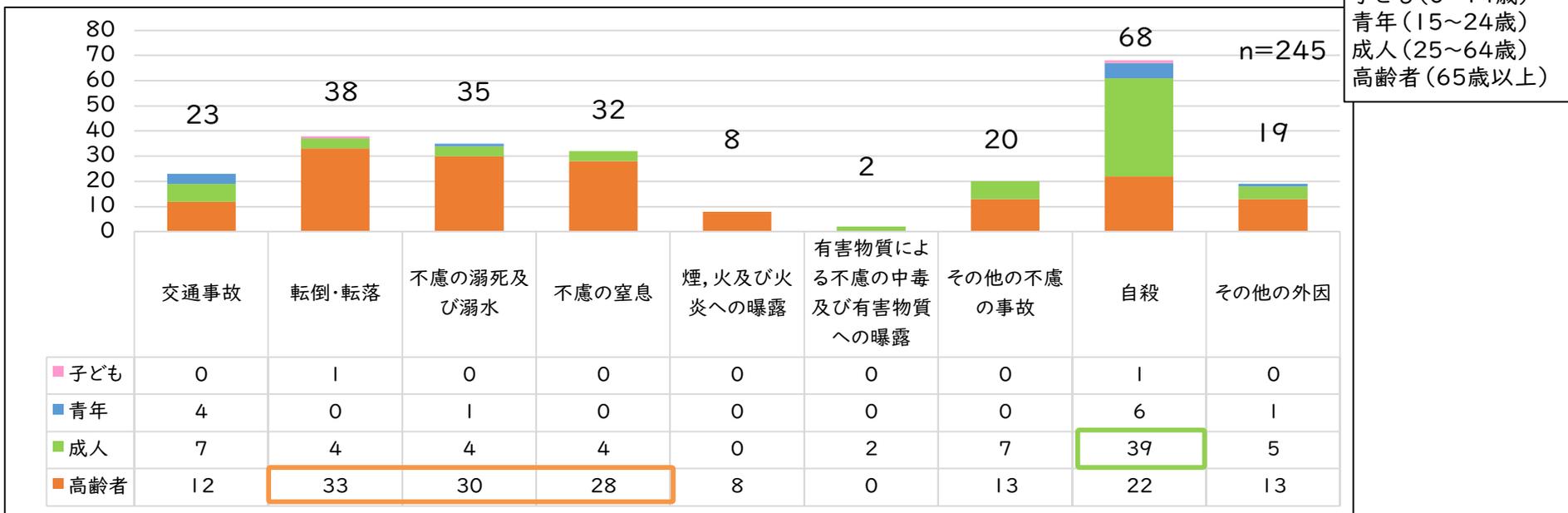


# 外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡者数の推移

図表15 年別 外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡者数の推移(2012~2023)

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	合計
交通事故	0	1	3	1	2	5	3	1	1	1	2	3	23
転倒・転落	4	2	2	4	4	2	5	1	4	2	4	4	34
不慮の溺死及び溺水	1	2	6	3	1	3	4	1	3	3	4	4	34
不慮の窒息	5	2	1	4	1	1	0	2	6	3	4	3	27
煙,火及び火炎への曝露	0	4	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	8
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
その他の不慮の事故	3	1	4	2	1	0	2	1	2	1	2	1	17
自殺	9	6	9	9	5	4	3	3	6	4	4	6	59
他殺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の外因	3	0	0	2	0	2	4	2	0	1	1	4	16

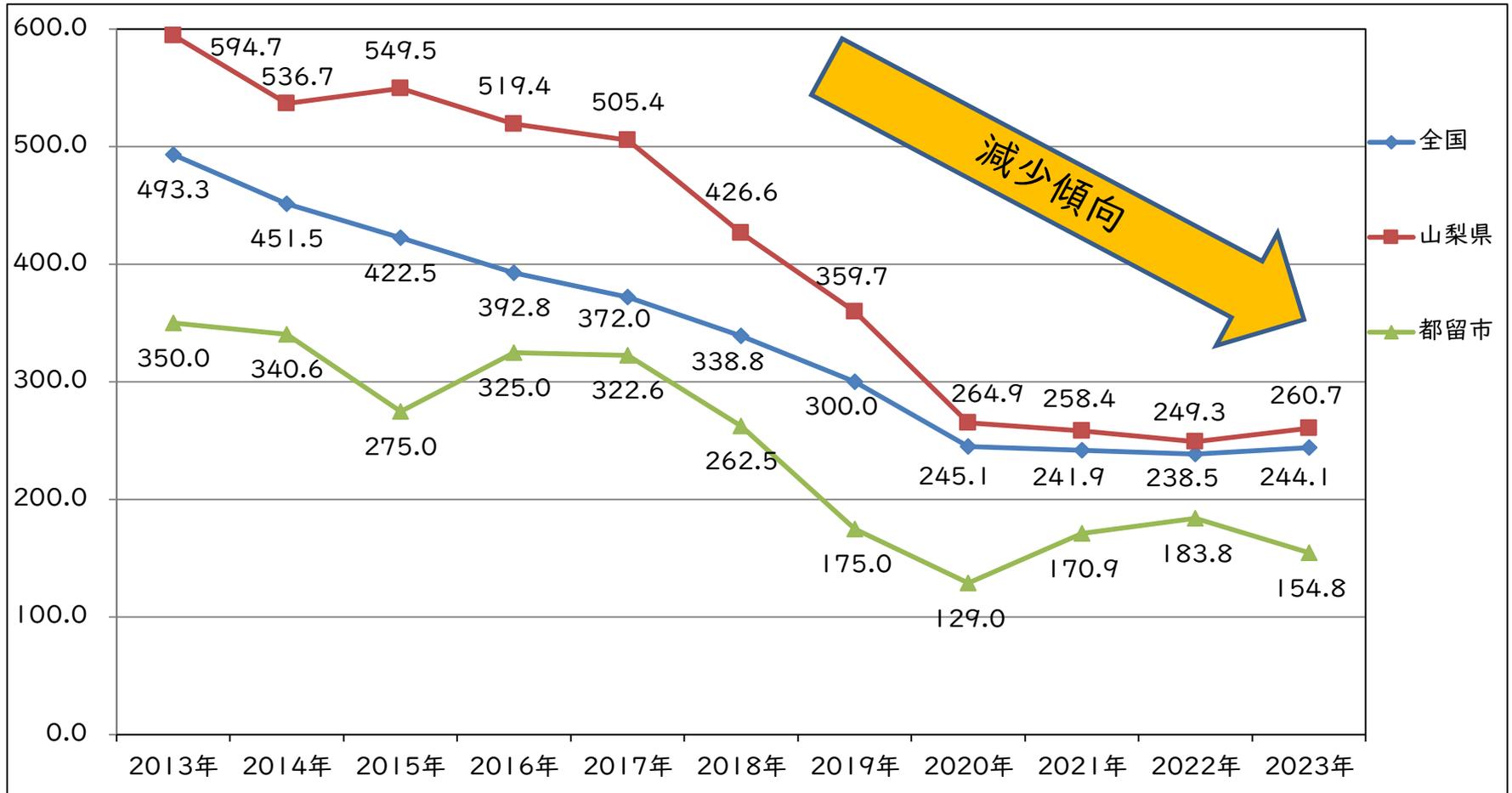
図表16 年齢別 外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡者数(2012~2023)



# 交通事故発生件数

⇒ 交通事故件数は全国・山梨県と同様に減少傾向にある。

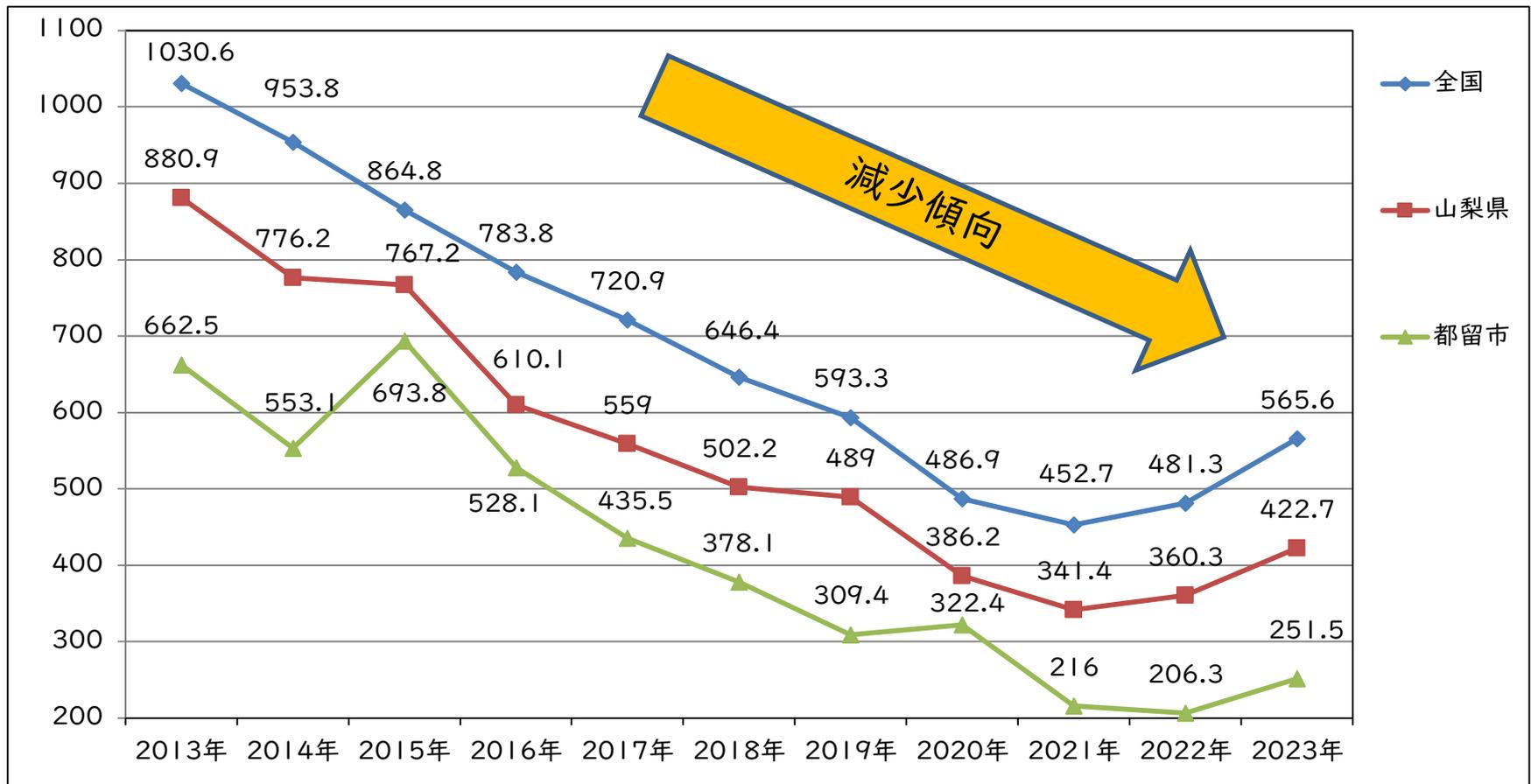
図表17 人口10万人あたりの交通事故件数



# 犯罪発生件数

⇒ 刑法犯認知件数も全国・山梨県と同様に減少傾向にある。

図表18 人口10万人あたりの刑法犯認知件数



# 対策委員会への助言・提案 (2024年 安全診断)

# 防災・減災対策委員会

## 外傷サーベイランス委員会による評価

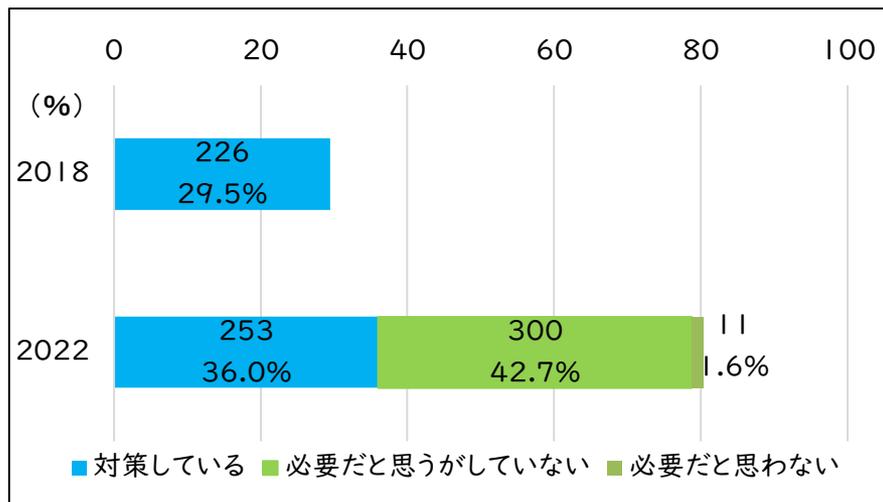
### 【データ分析】図表19

家具の転倒防止、家電の落下防止対策の実施アンケートにおいて、職業区分・年齢・居住実態（持ち家か賃貸か）まで分析できれば、より効果的な対策ができるのではないか。

### 【データ収集】図表20

地区防災計画を策定済みの自主防災会について、なぜ進まないのかの原因を究明し、それを解決する手段を検討する必要があるのではないか。隣の地区が作成しているなどの条件があれば、それを参考にたたき台を作るなどの対策ができないか。また、策定途中の数字も含ませた方がより細かい分析ができるのではないか。

図表19 家具の転倒防止や家電等の落下防止対策  
(2018・2022地域環境課実施 市民意識調査)



図表20 地区防災計画の策定希望調査  
(2023 総務課調査 自主防災会アンケート)

年度	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
策定数	2	4	5	5	5	9	9
自主防災会総数	91	91	92	92	92	92	92
策定割合	2.2%	4.4%	5.4%	5.4%	5.4%	9.8%	9.8%

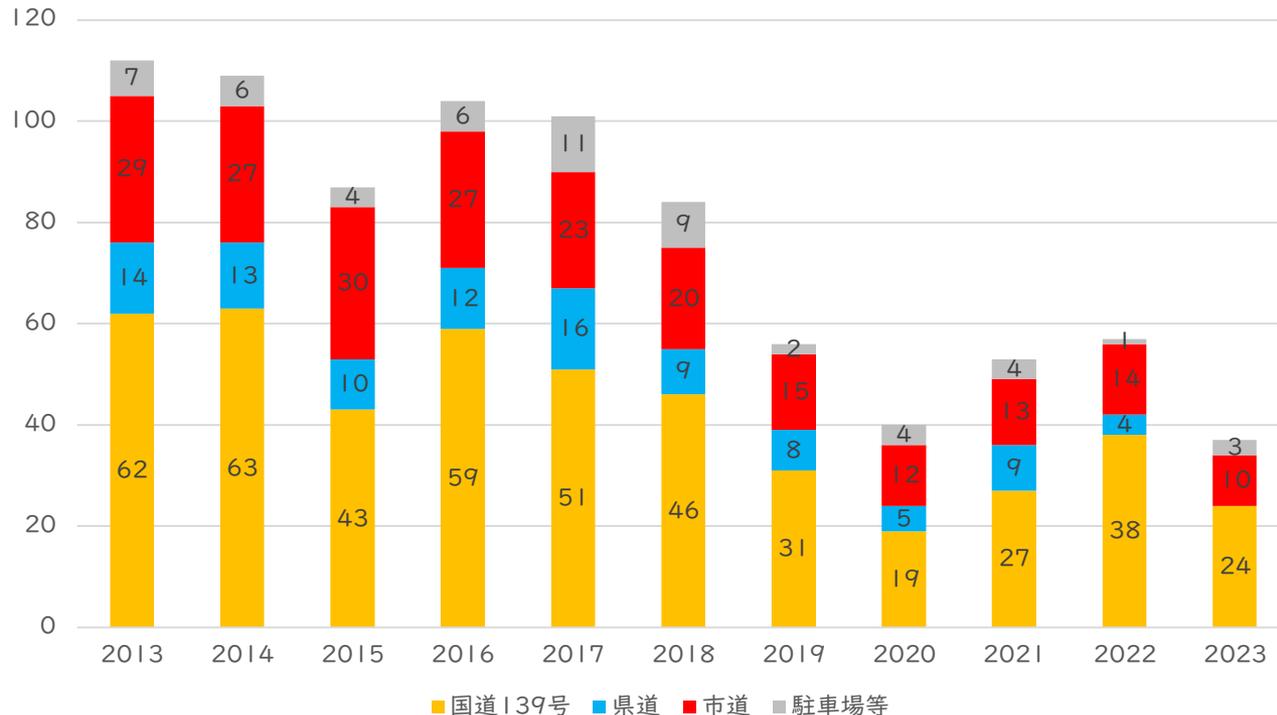
# 交通安全対策委員会

## 外傷サーベイランス委員会による評価

### 【データ分析】図表21

- ・交通事故の第一当事者となる割合が高い20代において、働いているのか、学生なのかが分かるとアプローチの仕方が変わるのではないか。
- ・歩行者事故における発生路線として、県道の割合が増えているので対策が必要ではないか。

図表21 発生場所別交通事故発生件数(警察データ)



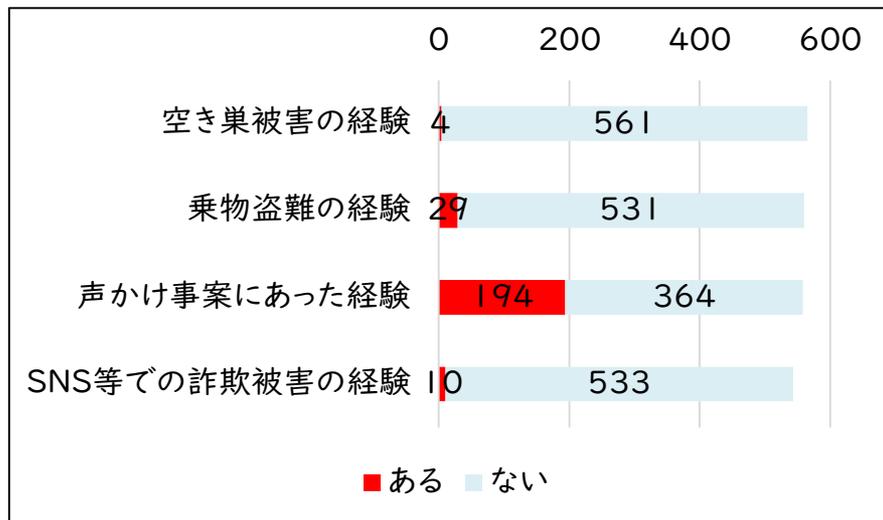
# 防犯対策委員会

## 外傷サーベイランス委員会による評価

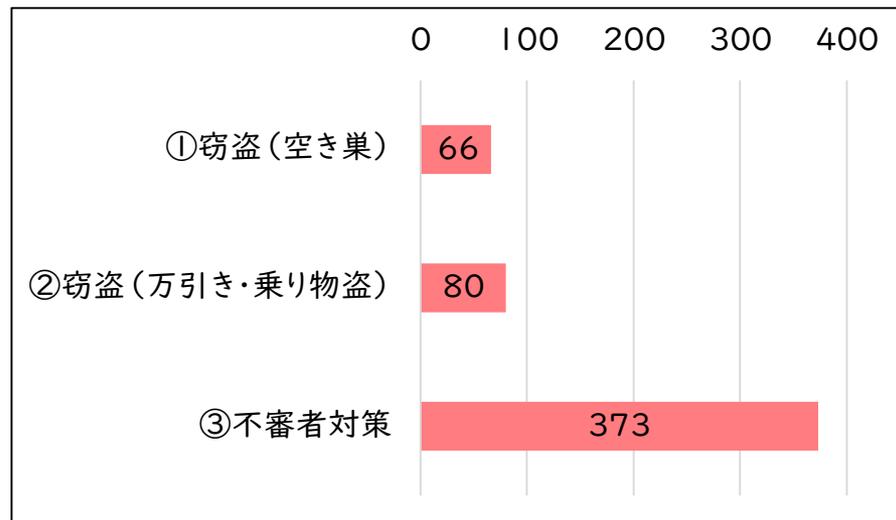
### 【データ収集について】図表22・23

- ・学生の立場から取り組んで欲しい防犯対策について、「犯罪の発生抑制として具体的に何をしてもらえば安全・安心か？」など、具体的な要望まで聞き取り整理することで、より効果的な対策ができるのではないか。
- ・都留文科大学の学生は7割が女性であるため、具体的な声を拾い、詳細データの収集をお願いしたい。

図表22 犯罪被害に巻き込まれた経験  
(2019年防犯対策委員会 都留文科大学 学生アンケート)



図表23 取り組んで欲しい防犯対策  
(2019年防犯対策委員会 都留文科大学 学生アンケート)



# 高齢者の安全対策委員会

## 外傷サーベイランス委員会による評価

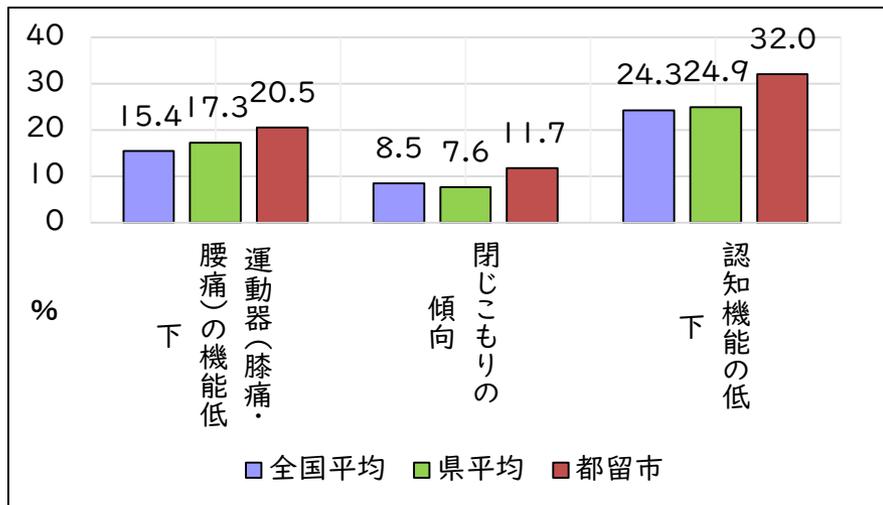
### 【活動の成果】

全国的には、高齢化に伴い、介護保険料は右肩上がりが増えてきているが、本市では若干緩やかに推移（介護認定者や要支援者についても）しており、いーばしょ事業の影響が出ていると考えられるため、今後も事業を推進していただきたい。

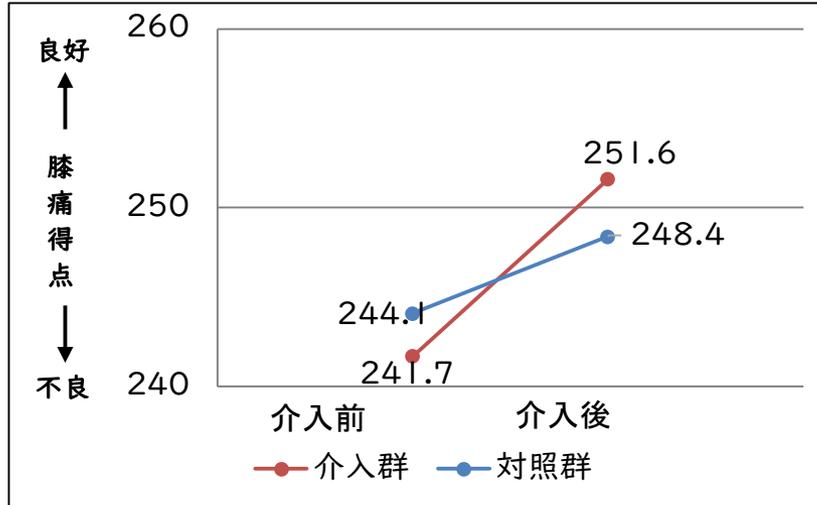
### 【データ収集】図表24・25

高齢者の生活状況調査の比較分析を行うことで成果が見えると思うので、最新データを取得すること。

図表24 生活状況調査 全国・県との比較  
(2013年 長寿介護課 共同研究調査)



図表25 生活状況調査 教室型介入と膝痛発生の相関性  
(2013年 長寿介護課 共同研究調査)



# 親と子の安全対策委員会

## 外傷サーベイランス委員会による評価

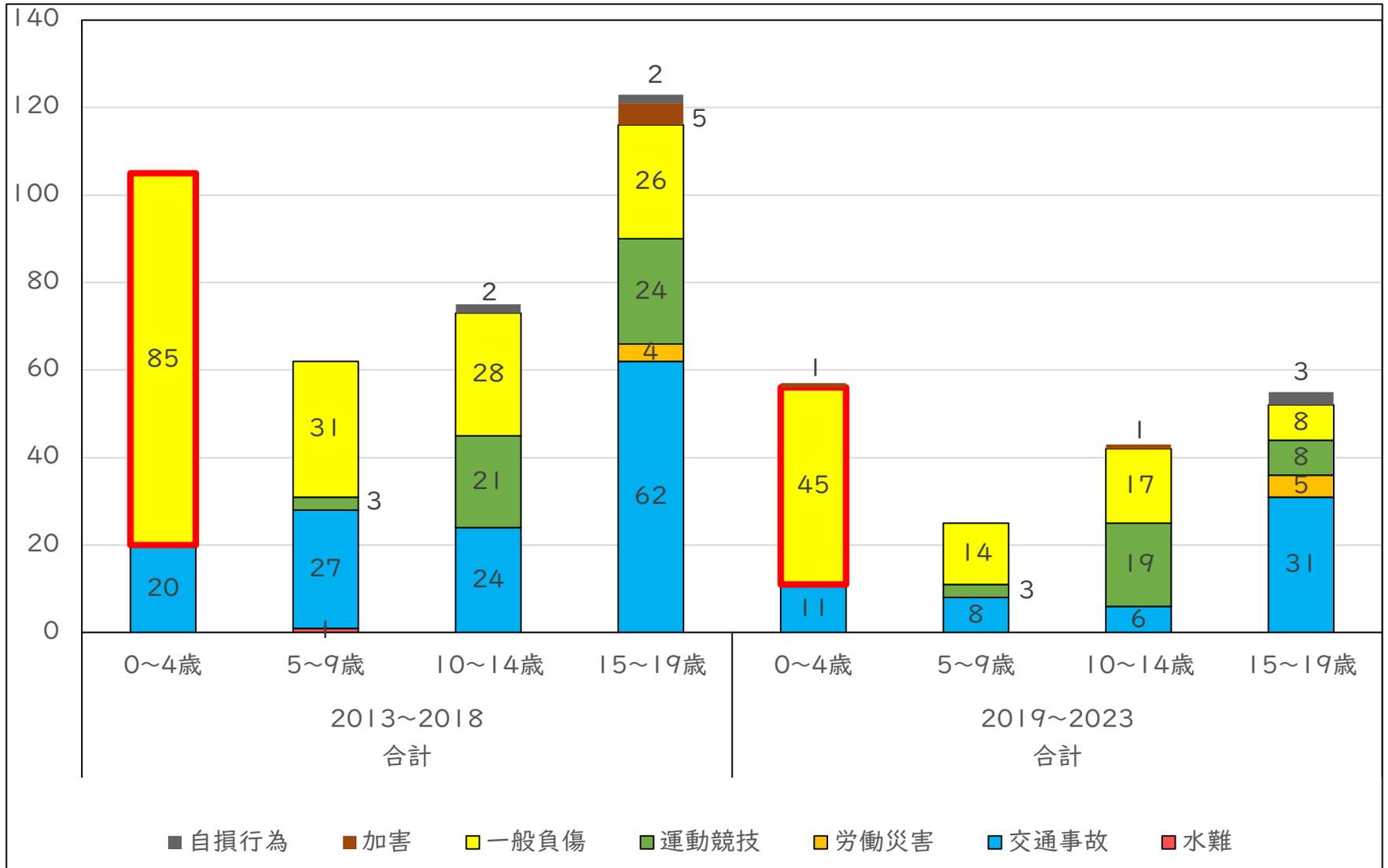
### 【データ分析】

- ・乳幼児（0～4歳）の救急搬送について、年々子どもの数は減少していると考えられるため、件数ではなく、年別に割合で出した方が正確な推移や増減が分かるのではないか。
- ・虐待通報がどこ経由かが分かれば、より具体的な対策ができるのではないか。他市では、子ども本人からの通報が少ないため、子どもに直接啓発するなどの取り組みを行っているため、参考にしてはどうか。

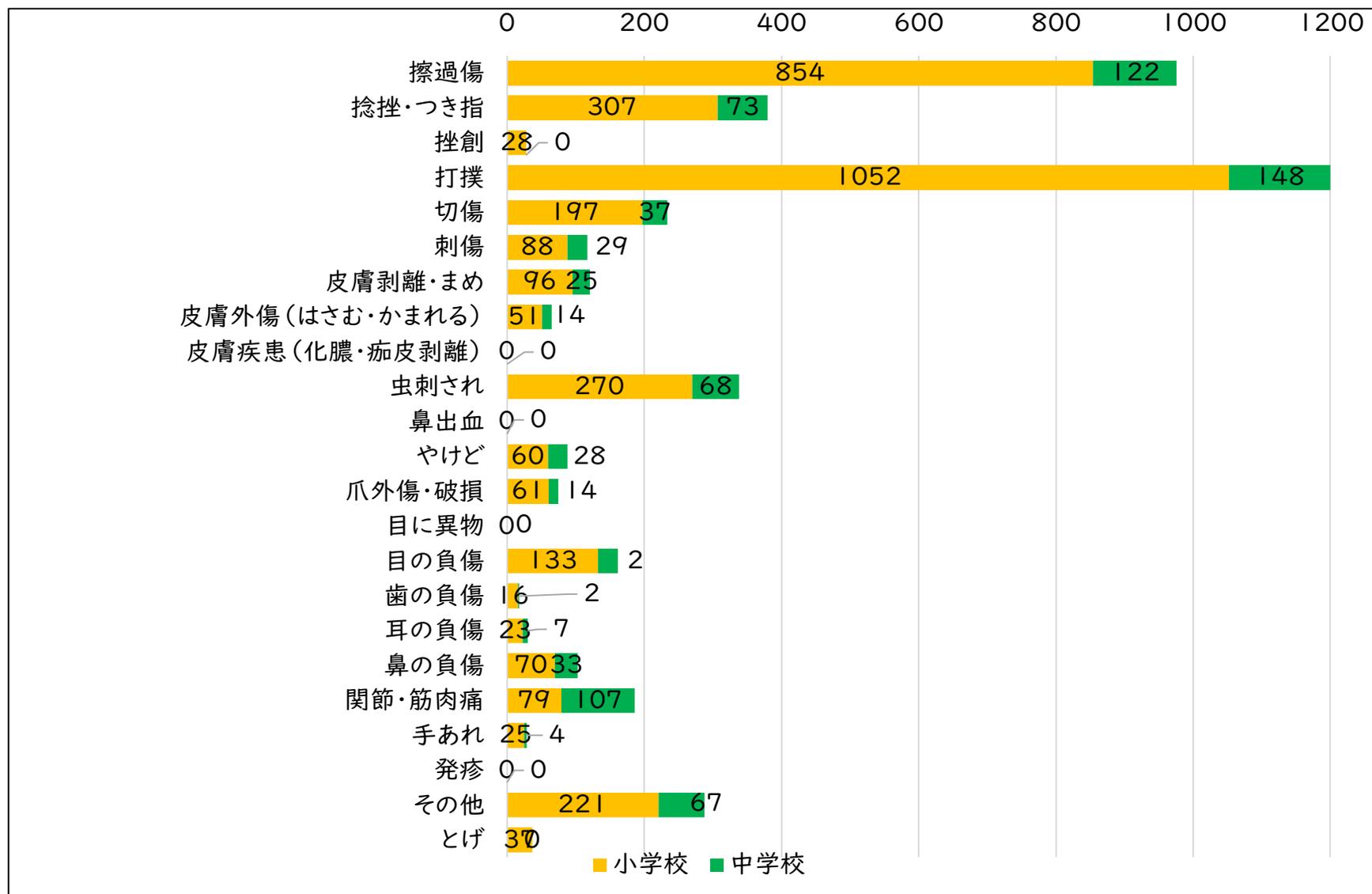
### 【データ収集】図表26・27

- ・市内小中学校の保健室来室記録について、割合が多い「その他」を整理し分析した方が良いのではないか。
- ・「子ども・子育て支援事業計画」で行ったアンケート結果も分析データにしてはどうか。

図表26 0～19歳救急搬送件数(2013～2023) 消防署データ



図表27 保健室来室件数・受傷原因別件数(2023保健室来室記録)



# 心の健康対策委員会

## 外傷サーベイランス委員会による評価

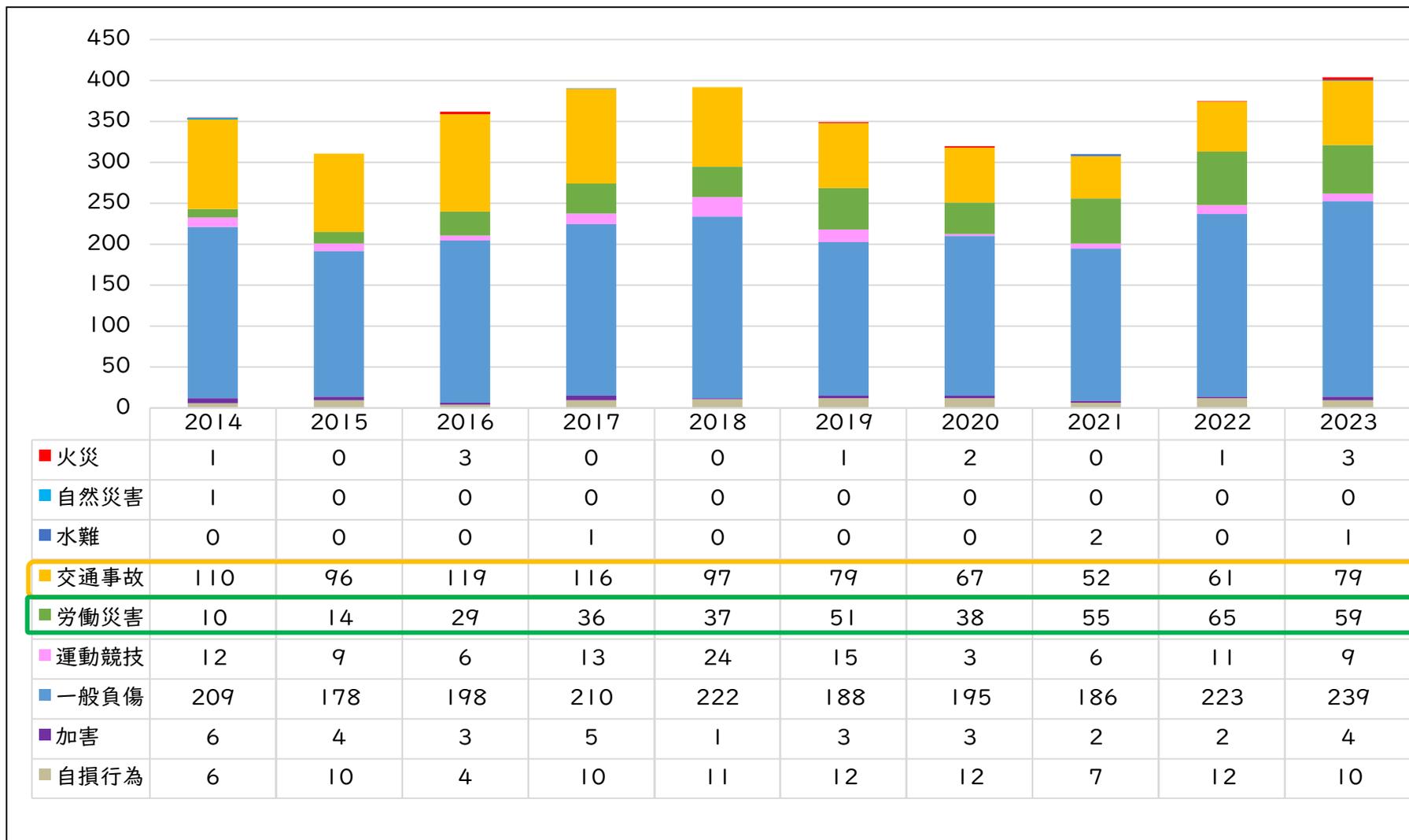
### 【データ分析】図表28・29

- ・外的要因による死亡者数に「救急搬送前に既に亡くなっている場合」が含まれていないため、自殺の割合として多い首吊りや溺れは、もっとリスクが高いと捉えられるのではないかと。重症度という面から見ると、「溺水」や「自殺」をハイリスクとして捉えても良いかもしれない。
- ・自損行為で多い20～24歳の自殺を図って未遂となった方たちもハイリスクと捉えて活動を行っていくべきではないか。

図表28 外的要因(不慮の事故、意図的要因・その他の外因の合計)による死亡者数の推移(2012～2023 都留市)

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
交通事故	0	1	3	1	2	5	3	1	1	1	2	3
転倒・転落	4	2	2	4	4	2	5	1	4	2	4	4
不慮の溺死及び溺水	1	2	6	3	1	3	4	1	3	3	4	4
不慮の窒息	5	2	1	4	1	1	0	2	6	3	4	3
煙、火及び火炎への曝露	0	4	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0
有害物質による不慮の中毒及び有害物質への曝露	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
その他の不慮の事故	3	1	4	2	1	0	2	1	2	1	2	1
自殺	9	6	9	9	5	4	3	3	6	4	4	6
他殺	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他の外因	3	0	0	2	0	2	4	2	0	1	1	4

図表29 事故種別救急搬送件数(2014~2023 都留市)



# 今後の課題・改善点・方向性

## 外傷データの分析における課題や改善点

過年度は、外傷サーベイランス委員会を年1回開催しているが、分析するデータ量が膨大となり分析時間が不足している現状であるため、複数に分けて「より深く」分析する機会を作ることにより、これまで以上に的確な助言・指導を委員からいただけると考える。

しかし、複数回の開催を行う場合、データの事前分析・資料作成を行う統括事務局の負担が増えることが想定されるため、実施についての検討が必要である。

### 【今年度におけるサーベイランスの方向性】

- ・再認証事前指導における審査員のアドバイスを受け、プログラム改善におけたデータの収集・分析を行う。
- ・取組を「評価する」観点からも、量的データだけでなく、聞き取り調査やアンケート調査など、質的なデータについても分析していく。

ご清聴ありがとうございました。